

取手ストリートアートステージプロジェクト2017

ごあいさつ

ストリートアートステージは、JR取手駅東口歩道に設置されたアート展示台による屋外アートギャラリーです。
取手市では平成3年10月に東京芸術大学取手校地の開設を機に、市民の皆様が芸術を身近に感じてもらうための文化芸術事業を展開してまいりました。
このストリートアートステージは、街中を美術館化していく「タウンミュージアム構想」の一環としてスタートし、今回で7幕目を迎えます。
ここで展示する作品は、東京芸術大学美術学部の教員はじめ学生の皆様が思いを込めて、野外に設置するには適しているステンレス素材で制作された16作品です。
ここでの展示期間終了後に円環状に連結された時、どのような表情になるか考慮した上での制作は、大変なことと存じます。限られたスペース、構成、野外展示、人が往来する歩道、様々な条件を考慮していかにより創造性豊かな作品を制作できるか努力された結果だと思えます。
市では、今後も東京芸術大学と連携しながら市民に親しめる、個性的で魅力あるまちづくりを進めて参ります。
今回の制作展示に携わった東京芸術大学美術学部及び関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

取手市長 藤井 信吾

街の歩道に立体作品を設置し、道ゆく人が身近に芸術と触れ合える。茨城県取手市と東京芸術大学彫刻科金属研究室と工芸科鍛金研究室の共同プロジェクトである「取手ストリートアートステージ」も今回で7回目を迎えることになりました。
彫刻、工芸の各科8名ずつ、計16名の作家が環境、形態、他作品との関連性などの制限を踏まえつつもそれぞれの個性を発揮し表現した作品群となっております。
また3年の展示期間を経てそれぞれ8つの作品が繋がり、2つの円環状の作品として生まれ変わり、場所を変えて設置され、取手の街の風景の1部となります。
前回制作された作品は2017年11月に「取手ウェルネスプラザ」に設置されました。
今回の作品群もいずれ形を変えた時、どのような風景を見せ、街の皆様とどう関わっていけるのか楽しみです。
取手市のご協力に感謝をするとともに、このプロジェクトのさらなる発展を願っております。

東京芸術大学美術学部彫刻科教授 木戸 修



制作:東京芸術大学美術学部 彫刻科 金属研究室/工芸科 鍛金研究室
計画:東京芸術大学美術学部
発行:取手市 文化芸術課
撮影:丸子成明

秋吉 真悠子

AKIYOSHI mayuko

stage.1

「diffuse reflection」

川面に飛び散る光を覗き込み
その奥の透明を想う



吉田 果歩

YOSHIDA kaho

stage.1

「移ろい」

流動的なかたちの1つ1つが、
全体を構成する一部となる。



松島 勇祐

MATSUSHIMA yusuke

stage.2

「連続するかたちは附着する」

結晶が附着して成長していく
様子をモチーフに制作しました。



小林 絵里佳

KOBAYASHI erika

stage.2

「Connection」

「形の連続による有機形態」



小林 かおる

KOBAYASHI kaoru

stage.2

「つづく、それから」

わたしの地元と取手、それから
海をつなぐ坂東太郎



藤田 永子

FUJITA nagako

stage.3

「湛える」

水の粒をあつめて
いっぱい湛える



佐瀬 梓

SASE azusa

stage.3

「山茶花」

困難に打ち克つ、ひたむきな
姿。



内藤 早良

NAITO sora

stage.4

「Molding stage」

なんだろうと目を向けた時、
じわじわと生命に宿る動きが
現れる。



取手ストリートアートステージは「タウン・ミュージアム構想」の一環として取手駅東口の歩道沿いに設置された屋外のアートギャラリーです。
取手市と東京芸術大学が協力して「独特の環境形成と芸術文化の生成を目指して」随時制作、展示し続けていく事を目的とし、東京芸術大学美術学部の彫刻科(金属研究室)、工芸科(鍛金研究室)の講師、助手、学生が作品を制作しました。
全16作品は永続的な展示ができるようにステンレス素材で制作されています。これらの作品は人の手の届く歩道脇に約3年間設置され、その後、組み合わされ、2つのリング状の作品として永久設置されます。

設置されたリング作品



「サイクルステーションとりて入口」設置作品(2011年度制作) 鍛金(工芸科)



「サイクルステーションとりて入口」設置作品(2011年度制作) 彫刻科